



鹿児島県看護連盟だより Kagoshima Nursing Federation

れんめい

No.60

2018.May

—鹿児島県看護連盟通常総会—

6月17日 日 開催です。

第3回 政策から見てみるシリーズ

子どもが病気の時

サポートはありますか？

—子育て中の看護師アンケート調査の結果から—

Contents

会長あいさつ

平成30年度研修計画

「現場の声」関連図



会長あいさつ



「石田まさひろを応援する会」 1万人鹿児島ネットワーク にご参加を！

平成30年5月吉日
鹿児島県看護連盟 会長 徳永 龍子

鹿児島県看護連盟は、昭和35年5月に創立され今年で58年目となります。本日、「かנגれんめい60号」をお届けします。人なら還暦の記念号です。

これまで看護職会員、役員、看護職議員、応援いただいた多くの皆様にご参加協力いただいた賜物と心から感謝申し上げます。

今回のトピックスは「子育て中の看護師さんの声」の調査結果をまとめたものです。

看護連盟の役割は看護協会や看護職の声を看護政策に反映するため、看護職議員に政治力を発揮していただき法律・制度等の制定や改正、予算獲得をしていただくことが使命です。新年度の診療報酬、介護報酬同時改定による看護関連予算概要を総会要綱に掲載しております。制度を実現いただき看護現場で質の高い効果的で効率的な看護を安心・安全の下に提供できる体制整備をお願いいたします。

また、今年度も3千人以上の方が鹿児島県看護連盟にご参加協力をいただき心から感謝申し上げます。皆様の会費は、政治活動や研修会等の費用に使わせていただきます。

石田まさひろ参議院議員は、看護夜勤手当の20年ぶりの値上げに奔走いただき、また診療報酬、介護報酬、障害福祉改定では「夜間看護配置加算」の新設を始め、多くの看護政策に取り組み実現しました。過去に認知症ケア加算を実現した石田議員の研修会は、7月21日、8月18日、平成31年1月9日に認知症ケア研修会と同時開催いたします。多くの方に

国政の動向をお聴きいただき、議員との意見交換もぜひお願いいたします。6月17日には、青木比登美先生からIoTやAIを活用した地域包括ケアの最新情報の特別講演をいただきます。

10月13日には、聖路加国際大学名誉教授の岩井郁子先生に看護記録の公的な根拠とされる、①法律②行政機関通達③関連団体・公的機関④学会に基づき作成された2016年日本看護協会看護業務基準に、今回改正の看護記録を加えて特別講演をしていただきます。

青年部委員会は、「伝える力再開発」「在宅&特定看護」ワークショップ、「美が与える癒しスキンケア」など現場の業務・制度改善に繋がる研修をいたします。ぜひご参加ください。

衆参4名の国会議員は、自民党看護問題小委員会の議員の方々の協力も得ながら、看護政策は勿論のこと、それぞれ幅広い領域で活躍しておられます。

平成30年度鹿児島県看護連盟は、鹿児島県看護協会と協働して、看護職の就労環境の改善・充実、看護の質担保のための看護教育・研修の充実等、県・国へ引き続き要望を提出し全力で取り組んでまいります。

最後に、石田まさひろ参議院議員の政治活動をより多くの会員に知っていただき、1会員が2人の家族、友人、知人に伝え広め、「石田まさひろを応援する会」1万人の鹿児島応援ネットワークにぜひご参加ください。今後とも尚一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成 30 年度通常総会のご案内

平成 30 年 6 月 17 日（日）

会場：鹿児島県市町村自治会館 4 階 大ホール
〒 890-0064 鹿児島市鴨池新町 7 番 4 号（県庁前） TEL：099-206-1010

受付 12：30 開会 13：00

平成 30 年度通常総会 特別講演

「地域包括ケアにおけるIoT技術とAIロボットを使った連携と取り組み」

KK ワーコンプロジェクト

代表取締役 青木 比登美 先生

時間 15:00~16:40 （受付 14：30ー）

* 総会に出席された方は、受付は必要ありません。

対象 会員、非会員どなたでも参加いただけます

* 非会員の方は、参加費 ¥1,500

* 加入施設の方々には申込用紙を配布しておりますが、そちらで申込を
されていない方は、事務局までお知らせくださいませ。



「看護師の活動は皆さんが思っているよりも制限されています。例えば、医師の指導がなければ原則として診察や治療はできません。また、私が医療の世界に入る前は、看護師が患者さんの家で看護することも法で禁じられていました。

それが医療制度が変わったことで、看護師が事業所を立ち上げられるようになり、病院がなくても看護することが可能となったんです。政府も当時から高齢化社会の問題に危機していたのだと思います。しかし予想より高齢者の方は多くなっているため、現状の病院や医療機関の数では高齢者の看護が追いつきません。だからナースステーションを地域に展開し、利用者様のご自宅で医療サポートが受けられる『ワーコンプロジェクト』を立ち上げたんです。」

引用：mute(ミュート) http://muto-web.com/spotlight/18_2/

Profile 青木 比登美 / あおきひとみ

九州大学医療技術短期大学部卒業後、九州大学医学部附属病院勤務。看護師時代に、在宅医療支援の始まりに強く影響を受け、在宅生活を中心に地域医療、企業がネットワークを構築する事で高齢者の生活全般をサポートできる方法を模索する。そして2016年6月、ファジーに看護を展開していくモデルを実践する『株式会社ワーコンプロジェクト』を設立した。



Pick Up
研修

鹿児島に来ます！

参議院議員

石田まさひろ 先生

7/21 (土) 8/18 (土)

鹿児島県ポリナビ×リーダー研修Ⅲ

フレッシュナースと看護学生との交流研修

参加費無料

現在、厚生労働委員会（参議院）の筆頭理事も務めていることもあって国会で忙しく活躍中の石田議員が今夏、鹿児島にやってまいります。

石田さんが認知症ケア加算の創設に尽力したことは記憶に新しいところです。また臨床現場においても認知症との間にある看護のジレンマについてもよくお聞きするようになりました。そこで、その分野において鹿児島で活躍されている吉松昌代さん（パールランド病院看護部長）や竹迫加奈さん（鹿児島市医師会病院 / 認知症看護認定看護師）の講演後、石田さんも参加者も一緒になって大いに語り合おうということを主なテーマにした研修内容を企画いたしました。

もちろん、そのテーマにとらわれないトピックについても皆様が話ができる内容も現在企画中です。ぜひ多くの皆さまに参加いただければと思います。（組織委員会 / 青年部委員会）



写真：石田まさひろ政策研究会 <http://www.masahiro-ishida.com/post-2968/>

6/30 (土)

看護研究や症例検討だけじゃない！日々のお仕事にもきっと役立つ。
「伝える力再開発ワークショップ」

場所：鹿児島県市町村自治会館 402 会議室

定員：40 名（先着順）

時間：9:45 - 17:00 参加費：会員 2,000 円 非会員 4,000 円

医療機関等の現場で働くナースにとって、カンファレンスや症例検討あるいは研究発表など何かと人前で話をする機会は少なくありません。最近では、パワーポイントなどを使用して発表資料を作成することも多いはずですが、しかし、それらのノウハウを教わったり習ったりする機会は、実はほとんどないのが実情です。

今より少しでも人に伝わる話や報告がしたい。プレゼン資料を作成したい。

そのような方々にピッタリの研修内容になっているかと思えます。昨年度の研修開催後にいただいたアンケートによる意見も参考にして一部内容も改変する予定です。申し込みや詳細は、県連盟ホームページから確認くださいませ。（青年部委員会）

鹿児島県看護連盟





平成30年度看護連盟主催研修計画

* 敬称略

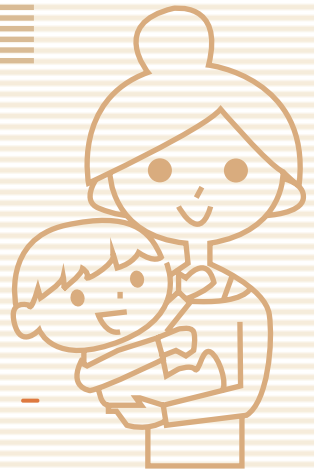
開催日	研修会内容	講師	会場
6月17日(日)	平成30年度通常総会 特別講演 「地域包括ケアにおけるIoT技術とAIロボットを使った連携と取り組み」	青木比登美 (KKワーコンプロジェクト代表取締役)	鹿児島県市町村自治会館 4階大ホール
6月30日(土)	看護研究や症例検討だけじゃない!日々のお仕事にもきっと役立つ。 「伝える力再開発ワークショップ」	嶋谷圭一(鹿児島大学大学院) 黒田庄太郎(高木病院) 近藤裕希(協和ケミカル株式会社)	鹿児島県市町村自治会館 402号室
7月21日(土)	鹿児島県ポリナビ×リーダー研修Ⅲ 特別講演 「診療報酬と介護報酬改定とその方向性」 「認知症の人の気持ちとそのケア」	石田まさひろ(参議院議員) 吉松昌代(パールランド病院看護部長)	鹿児島市中央公民館
8月18日(土)	フレッシュナースと看護学生との交流研修 特別講演 「診療報酬と介護報酬改定とその方向性」 「認知症の方とせん妄の方へのかかわり方」	石田まさひろ(参議院議員) 竹迫加奈(鹿児島市医師会病院/認知症看護認定看護師)	鹿児島県看護研修会館
9月20日(木)	看護管理者研修会 「診療報酬からみたサービスマネジメント」 看護協会の活動報告 看護連盟の活動報告 鹿児島県の看護行政	佐山静江 (獨協医科大学病院統括看護部長) 田畑千穂子(県看護協会会長) 徳永龍子(県看護連盟会長) 中村公美(県保健医療福祉課)	鹿児島県看護研修会館
10月13日(土)	看護記録研修 「看護記録のこれから」	岩井郁子(聖路加国際大学名誉教授)	鹿児島県市町村自治会館
12月8日(土)	「在宅×特定」から看護を語る	畑中勇二(訪問看護ステーションさくら) 花原 洋(鹿児島大学病院) 他	鹿児島県市町村自治会館
2019年 1月9日(土)	看護と政治	石田まさひろ(参議院議員)	サンブラザ天文館
2月2日(土)	看護職のためのスキんケア	調整中	調整中

* 会場や開催時間等の詳細については、今後の案内や県連盟ホームページにてご確認ください。



子どもが病気の時 サポートはありますか？

- 子育て中の看護師アンケート調査から -



平成 29 年度の広報誌のトピックスは、「かごしまの子育て事情」をテーマに Vol.58 では院内保育所について、Vol.59 では鹿児島県の病児保育の現状と利用方法、状況等の特集しました。平成 29 年度の「子育て事情」のまとめとして「子育て中の看護師の声」を取りあげました。今回のアンケート調査によって、子どもが病気の際の対応と子育て環境整備のニーズについて情報が得られましたので、その一部を掲載いたします。皆様のご協力に対し、この場を借りて感謝申し上げます。自由記載欄の「生の声」も今後の政策に活用していきたいと思ひます。

調査概要

実施期間：平成 30 年 2 月 20 日～3 月 20 日

対象者：鹿児島県の子育て中（小学校 6 年生まで）の看護師

有効回答：417 名（有効回答率 35.3%）

調査票は 1180 枚配布、1 施設 2～5 枚郵送し回答は主に FAX を用いた。

設問項目：下記参照

1. 子どもが病気の際どう対応していますか。（複数回答可）

- 1）休暇制度利用（看護休暇、有給休暇）
- 2）応援体制で対応（親や親せき、友人や知人、ベビーシッター）
- 3）病児保育利用
 - 1 年間の利用日数と希望したが利用できなかった日数
- 4）その他の対応（勤務交代対応、配偶者が休暇、一人で寝かせておく）

2. 子育てしながらも働きやすい社会にするために子育て環境整備の希望を教えてください。

20 項目提示し、重要と思うもの上位 5 項目を選んでもらった。（項目は下記）

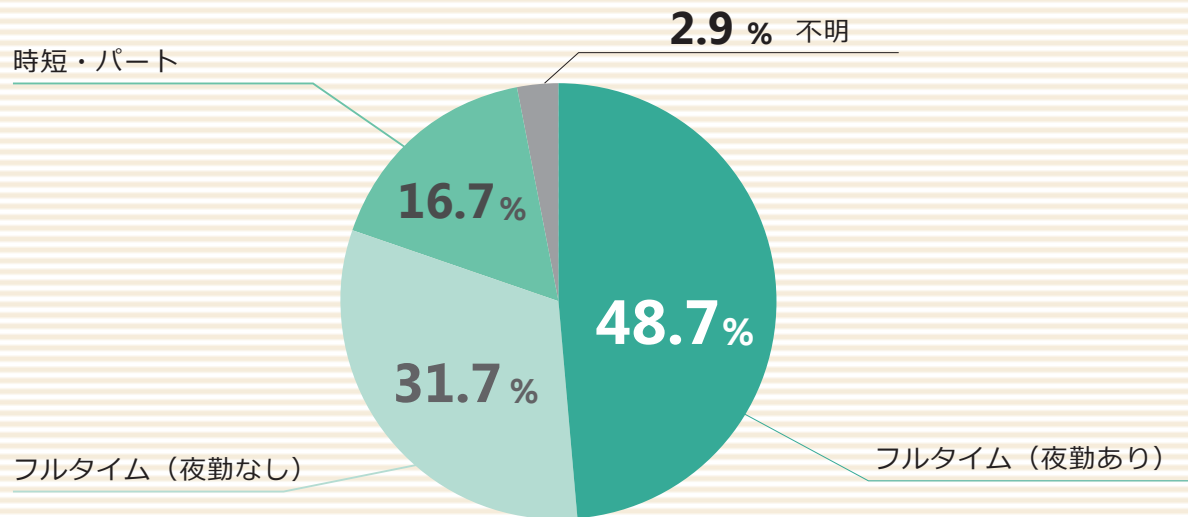
- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 保育所の増設や増員 | 11 ベビーシッター制度の充実 |
| 2 保育料の減額または補助 | 12 市町村保育ママ制度充実 |
| 3 職場内保育所の増設や整備 | 13 男性の子育て参加意識の向上 |
| 4 柔軟な延長保育 | 14 子育て者への社会の理解と支援 |
| 5 病児保育施設の増加 | 15 学童保育の増設 |
| 6 病児保育利用費用の補助 | 16 地域における子育て支援 |
| 7 収入保障の育児休業の延長 | 17 定時に帰れる環境や雰囲気 |
| 8 男性の育児休業を取りやすくする | 18 上司や職場の理解と支援 |
| 9 有給の看護休暇の新設 | 19 フレックスタイムの導入 |
| 10 看護休暇の充実（日数増や次年度繰越制度） | 20 いろいろな働き方の選択制 |

調査結果の概要

- 未就学児をもつ看護師は、そうでない方より対応日数が長い
- 子どもが病気の時、やむを得ず直接対応出来ない時がある
- 病児保育の利用が少ない主な理由は環境の未整備と必要性の低さである
- 子育ての環境整備には、制度よりもまず職場環境が重要だと感じている看護師が多い

回答者数
回答者属性

417名



回答者の子どもをもつ数は、1人当たり **1.85** 人で、内訳は下記の通りです。

また6歳以下の未就学児をもつ方は、266名（63.8%）でした。

子ども1人  **159**名

子ども2人  **172**名

子ども3人  **76**名

子ども4人  **10**名

未就学児をもつ看護師は、そうでない方より対応日数が長い

子どもが病気の時の対応をした看護師は 398 名 (95.4%) で、延べ対応日数は **3877** 日でした。

看護師は、1 年間に平均 **9.8** 日、子どもの病気に対応していることになります。

未就学児をもつ看護師は、年間 **11.4 日** 対応し、全体と比べて 2 日程度対応日数が多くなっています。

一方で、未就学児をもたない看護師は、年間 **6.2 日** と対応日数は少なくなりました。

休みや周囲の協力を得ることができず直接対応出来ない時がある

有給休暇、勤務交代、看護休暇を「自身で対応」とし、親などの協力、配偶者の休暇、病児保育利用等を「周囲の協力」に区分しました。特に親や夫の協力を得ながら病児対応をしている看護師が多いことがうかがえます。

また自宅や職場に一人で寝かせておく対応をとった時も 6.6% ありました。

これは「一人で大丈夫」だからではなく、本来ならば仕事を休んで見る、あるいは自分以外の方に看てもらうことができれば良かったが、やむを得ず一人で寝かせておく対応をしたと考えられます。

(しかし、本調査では未就学児と就学児の両世代の子どもをもつ方が、どの子どもにどのような対応をしたのかまでは分かりませんので今後検証が必要です)

図 1. 病児対応別延べ日数の割合 (N=3877)

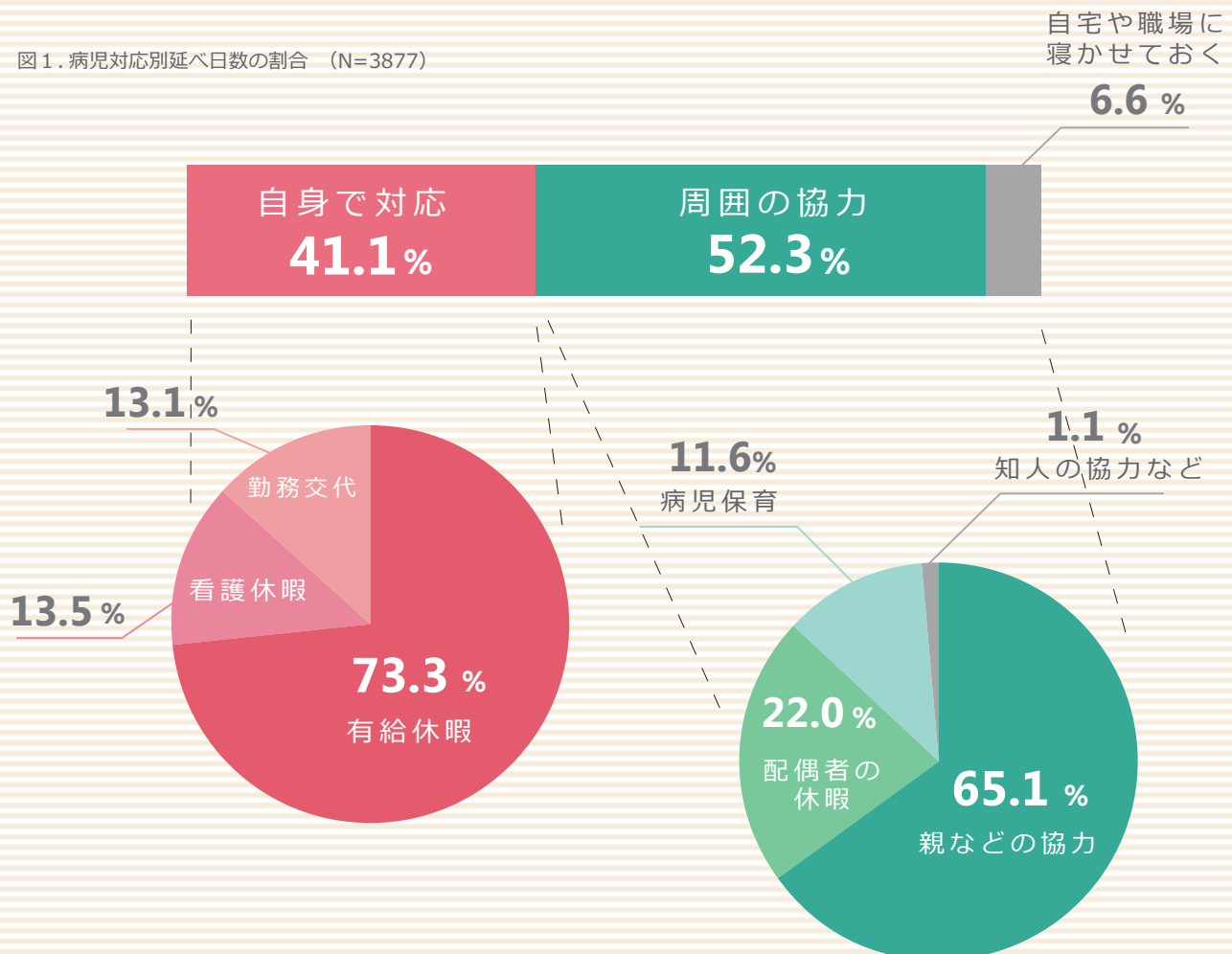


表1. 子どもが病気の時の対応別人数（重複回答あり）

項目	利用者数（人）	平均日数（± S D）	
有給休暇	243	4.8 (4.01)	自身で対応
勤務交代で対応	62	3.3 (3.02)	
看護休暇	56	3.9 (2.73)	
親などの協力	251	5.3 (6.59)	周囲の協力
配偶者の休暇	114	3.9 (3.92)	
病児保育	38	6.2 (6.77)	
知人・ベビーシッター	8	3.0 (1.41)	
自宅や職場に寝かせておく	81	3.2 (2.33)	

1人当たりの利用日数を見ると**病児保育が6.2日**と一番多いですが、**利用者数は少ない**ようでした。

（全体の割合で見ると**4.4%**です）

病児保育の利用が少ない理由

病児保育に（利用のため）登録している人は86名でしたが、登録しているが利用しなかった人は48名と利用した人の38名を上回りました。また登録自体していない人が326名で、その理由は表2の通りです。

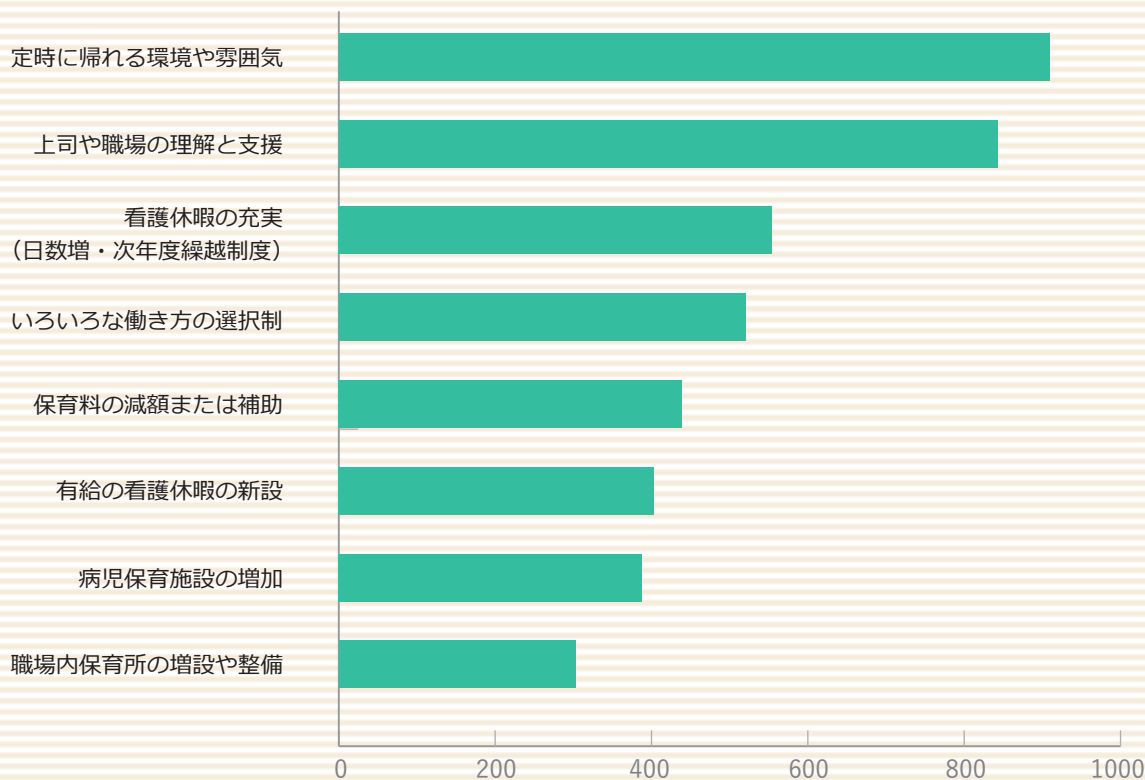
表2. 病児保育利用登録していない理由

区分	項目	
制度の認知	制度や登録方法など知らなかった情報を知らなかった。	 38名
必要性の低さ	親の応援があるので必要ない	 46名
	年齢的に必要ない	 21名
	院内にあるので必要ない	 4名
	必要な時休暇が取れる	 9名
環境の未整備	近くにない 自分の市町村にない	 45名
利便性の低さ	勤務時間に間に合わない	 18名
	キャンセル待ちが多く利用しにくい	 9名
	条件が多く利用しにくい	 8名
	費用が負担になる	 8名
利用に消極的	自分たちで看たい	 18名
	預けるのはかわいそう・不安	 13名
	病気の時は預けてまで働きたくない	 3名

子育ての環境整備には、まずはワークライフバランス！

子育てしながらも働きやすい社会にするために子育て環境整備の希望について上位8項目を図示しました。経済的な援助や施設の整備といった政策的な支援を望む声もありますが、それらよりも定時に帰れる職場環境や雰囲気づくりといった職場の支援が上位を占めています。

図2. 子育ての環境整備に関する希望項目



* 図示するにあたって、順位付けされた項目毎に1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点として集計した。

今後に向けて

病児の対応について親などの支援を得ることが可能な方も多い反面、休暇や周囲の支援が得られにくい時もあることが分かりました(図1)。親などの支援に関しては鹿児島県で就業する看護師は県内出身者が多いという特性が反映されていることも考えられます。但し、ここで大切なのは周りの支援が得られやすい環境の中でも対応に苦慮した時があることに視点を向けることでしょう。今後へのヒントは図2にも示されており、それは制度的なものにも合わせて更なる職場環境の充実があれば、もっと子育てをしながら働きやすくなると考えている方が多いということです(表2、図2)。定時に帰れる職場環境や雰囲気づくり、職場の理解などは職場で取り組み可能なものと言えます。そのため、まずは施設単位で、自分たちで何ができるか考えていく必要があるのかもしれません。

一方で、有給休暇とは別に看護休暇の充実を望む声

も少なくありません。休暇制度については法律等と関わることもあり、職場だけでの努力では実現が難しいこともあります。できるできないは別として、これはまさに政策的ニーズであり、子どもが病気の際は「自分で看たい」というニーズ(表2)を満たすことも踏まえるとワークライフバランスの推進や働き方改革の話につながってきます。

しかしながら今回の調査は、子どもをもつ看護師を対象にしており、それ以外の方々の声は入っておりません。子育て中の方々を優先するあまり、管理職も含めたそれ以外の看護師に業務のしわ寄せが生じる環境が常態化してしまったとしたら、それは本末転倒です。

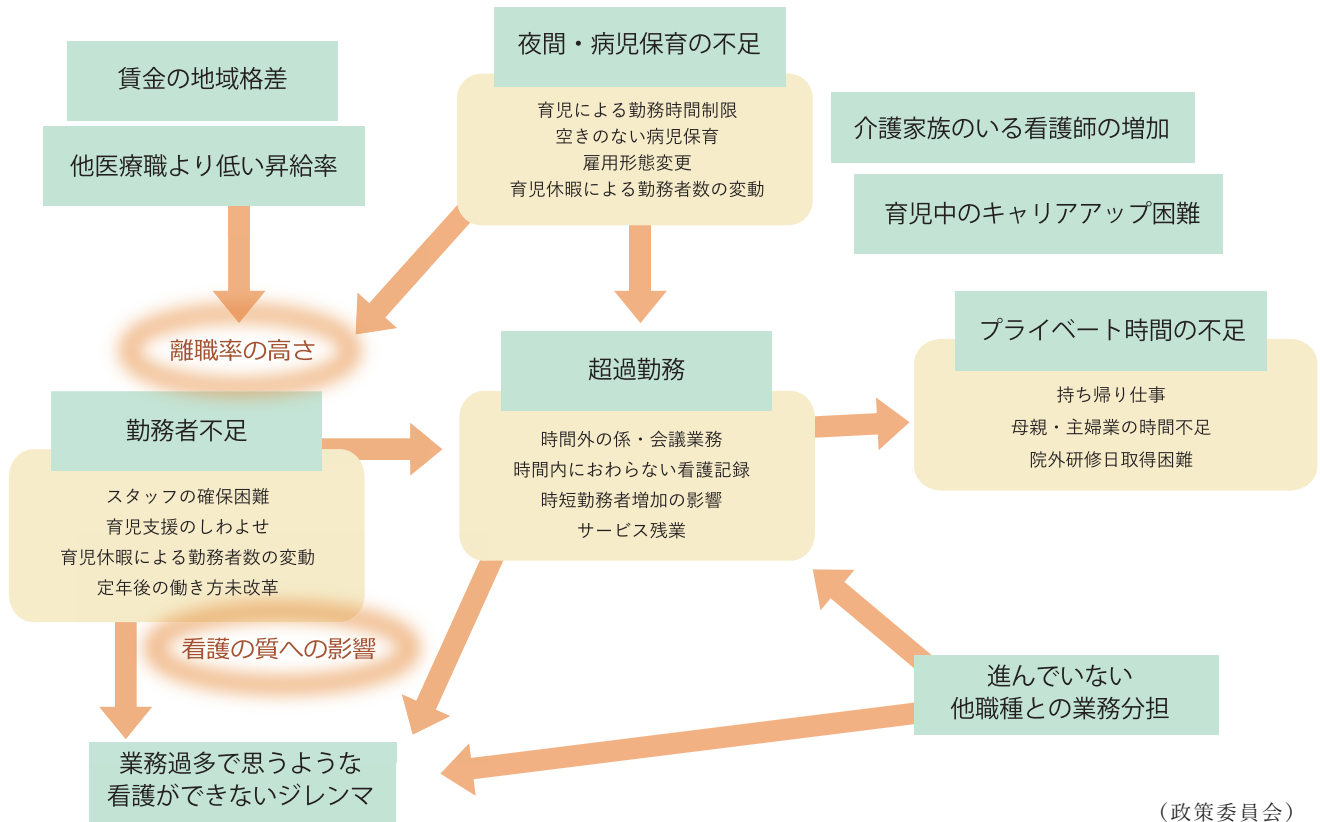
連盟としましては特定の誰かに偏ることなく、あくまで看護職のwin-winの関係性を考えながら制度設計や政策立案を目指す活動の重要性を改めて再確認した調査となりました。

(広報委員会)



「働き方改革」事例募集について

「現場の声」関連図



平成 29 年度政策委員会では、実施した研修会のアンケートから「現場の声」を関連図にまとめました。看護連盟の政策化のため分類し体系化したものです。この中から、平成 29 年度は「子育て支援」に力点を置き、広報誌「かంగれんめい N o 58 号・59 号・60 号」に特集を組み情報提供してきました。平成 30 年度も引き続き研修会などの機会をとらえ、「現場の声」を積み上げて施策化を図り労働環境改善に取り組みたいと考えております。

広報誌「かంగれんめい」では、平成 30 年度は「働き方改革」に力点を置き、看護職の勤務超過に対処している現場の成功事例をはじめ、超過勤務削減に向けて取り組みの参考になる情報を提供していきたいと考えています。

働き方改革に取り組んでいる事例募集

皆様に参考となる情報を提供していくことを目的として、看護職の勤務超過に対処している現場の事例や働き方改革に対する取り組みの事例を募集いたします。

問い合わせ先

鹿児島県看護連盟事務所
〒 892-0816 鹿児島市山下町 9-31 第一ホクエイビル 203
F A X : 099-219-5336

①施設名と連絡先②取り組み内容などを簡易で結構ですので
上記まで郵送または F A X でお送りくださいませ。

例) ・〇〇〇を取り入れたら超過勤務が減った。
・スタッフが(有給など)休みを偏りなく取るには〇〇〇
が有効だった。など





平成30年度看護連盟会員を募集しております。

正会員 看護職の方

日本看護連盟会費	5.000円
鹿児島県看護連盟会費	3.000円
合計 年間	8.000円

賛助会員

賛助会員年会費	1.000円
鹿児島県看護連盟の活動に賛同いただける方はどなたでも加入いただけます。	

学生会員 年会費無料

看護師、保健師、助産師又は准看護師の資格を得るために学ぶ学生で、看護連盟の主旨に賛同していただける方

◆問い合わせ先

鹿児島県看護連盟事務所

〒892-0816 鹿児島市山下町9番31号
第一ボクエイビル203
電話 (099) 219-5334
FAX (099) 219-5336

Eメール: kago-kanren@po5.synapse.ne.jp



輝く出会いをネットでも



i Perna OnLine

i Perna by イッシン

iPerna 検索

受付時間 / 24時間・年中無休



イッシン iS パール

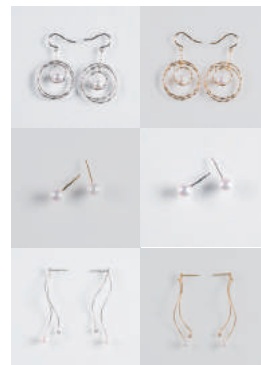
〒862-0920
熊本市東区月出8丁目3-52

www.iperna.com



グレーパールネックレス

Value Price



ベビーパールピアス

Value Price



Lumone



暖かさに
包まれる
贅沢なひととき。



ルモネ「マウンテンキルト掛けふとん」は
2017年度グッドデザイン賞を受賞しました。

東洋羽毛九州販売株式会社 鹿児島営業所

〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目64-25 TEL: 099-813-5950 FAX: 099-813-5953

0120-881125 URL <http://www.toyoumo.co.jp>

東洋羽毛は睡眠セミ
ナー講師を、無料で
派遣いたします。